令和８年度　授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第四中学校

1　学校として目指す授業

授業の定型化（目標の明示と説明、見通し、振り返りの徹底）、ICTの主体的・対話的な効果的活用　による主体的・対話的で深い学びの実現

2　生徒の現状

（１）「全国学力・学習状況調査」の分析（３年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語　学力：5.5（都基準5）正答率都平均比較＋２ポイント 意識・学習活動：4.8 数学　学力：5.4（都基準5）正答率都平均比較＋２ポイント 意識・学習活動：5,2 英語　学力：5.3（都基準5） 意識・学習活動：4.8 国語　無回答率+0.4P　成長した点や改善点への意識が低い傾向。 数学　関数-0.7P、度数データの読取-5.8P、上位層(9問)と下位層の2極化傾向。 英語　英語による意見交換、自分の考えを英語で書く意識が低い傾向。 ＊正答率は全教科都平均を上回っているが、国・英の学習意識に課題有り。 ＊学力分布に２極化の傾向が見られる。	主体的・対話的で深い学び：5.7（都基準5）話合い活動+7.7P、協力した課題解決+6.8P 読書：5.7（都基準5）授業以外の読書時間+4.9P、家の本の量-0.7P 総合・学活・道徳：5.3（都基準5）調べたことの発表+12.5P 生活習慣：5.1（都基準5）朝食を毎日食べている生徒は88.4%（都比較+10P）、同じ時刻に寝る生徒は-4.7P、起きる生徒は-7.4P。 自己有用感・心理的安全性：4.9　（都基準5）先生は良いところを認めてくれる+6.3P、困った時に相談できる-14.8P 学習習慣：4.9（都基準5）月～金の家庭学習時間-5P、土日の家庭学習-6.7P 学びの自己調整：4.8（都基準5）学び方の工夫-10.4P、学習の見直し+7.6P 向社会性：4.1（都基準5）困ってる人を助ける-13.1P、いじめはいけないこと-5.7P ICTの活用：3.9（都基準5）１・２年生でのICT機器使用-20.3P

（２）清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（３～１年生）

「授業内容がよくわかる」生徒の数値%（３年-２年-１年の順）
国語（30-23-20）社会（32-22-21）数学（31-27-17）理科（22-26-41）英語（33-23-16）
「授業内容がよくわかる」生徒の市平均との比較（３年：２年：１年の順）
国語（-0.1:-0.1:-0.1）社会（0:-0.1:-0.2）数学（0:+0.1:-0.2）理科（0:+0.2:+0.2）
英語（+0.2:-0.2:-0.3）
＊学年が下がるほど授業での理解が低く、１・２年生は市の平均と比較しても低い傾向。（理科は除く）
授業について（最高値4.0）
数学・英語において自分の学力に応じたコースに分かれて授業を受けること：3.5で高い。
他の教科で学習した内容を生かして考える時間がある：2.9で低い。
学校以外の学習について（最高値4.0）
自分で計画を立てている：2.9で低い。
教科書を読むなどして見通しを立てている：2.5で低い。
＊習熟度別（少人数）授業に対する肯定感は高い。
　課題は、教科横断的な学び、家庭学習における学習の進め方（改善の余地大）

（３）　その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
令和７年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査：男子実技は総合評価A評価の生徒が０人で、B評価も都平均と比較して-13.7P低い。持久力(+4.6)・50M走(+2.9)だが、その他の種目は長座体前屈(-4.5)など都平均と比較して低い。男子は運動能力の高い生徒が有意に少なく、種目の偏りも見られるが、運動好きな生徒は+6.4と意欲は高い。女子は総合評価ABの生徒割合が都平均と比較して+10.3Pと高いが、運動好きな生徒は都平均と比較して4P低い。運動能力は有意に高いが、運動への意識は低い傾向がある。

3　生徒の学力・学習状況等の課題

学力向上（正答率向上）に一定の効果が見られ、授業規律も概ね保たれている。
主体的・対話的で深い学び、総合・学活・道徳、読書等は平均を大きく超えており、定着が図られていることは強みである。
【課題】
・安心して授業を受けられる環境づくりが十分でない。（心理的安全性、向社会性が低い）（特に１年生は授業満足度が低い）
・ICTを効果的に活用した授業づくりが十分でない。

4　学校全体の授業改善の視点

1　見通しや将来への役立ちを示した授業で安心感を高める。（目標が明示されている。見通しが示されている。振り返りがある。）
2　わかる・できる授業で安心感を高める。（わからないことを質問できる。自分の意見を言える。話し合い・教え合いができる。）
3　ICTを対話的に活用している。（オクリンク）　ICTを個別最適な学習や家庭学習に活用している。（ミライシード）

【授業改善推進プランの活用法】
①「１　学校として目指す授業」を設定する。
　※学校経営方針との関連を確認すること。
②「１　学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「２　生徒の現状」に，まとめる。
③「２　生徒の現状」を基に，学校全体の課題を焦点化して，「３　生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「３　生徒の学力・学習状況等の課題」を基に，「４　学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「４　学校全体の授業改善の視点」を基に、「５　各教科における授業改善の方策」を設定する。　→　教育指導課へ提出する。

5　各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1学年	漢字や語彙などの国語の知識と感心を高める。また、文法から作文、文章読解に展開を広げ、自分自身で文章を組み立てるとともに、他者との言語活動を通じて、聞く・読む・書く・話す力を伸長させる。		ICTを利用した視覚的な教材を用いたり興味や身近な話題などから学習内容へつなげるなどの工夫やグループ活動を取り入れることで、他者との意見を共有することで自分の考えを深めたり、自分の考えを表現させる実践を行う		問題文や文字を用いて表された式の意味を読み取る活動を重視して、問いの場面を理解する力を養う。		観察や実験の授業を通して自分の考えを他者と共有し思考力を高めていくと共に、知識技能をICTを活用しながら定着を図る。		表現活動の中で、その曲にふさわしい表現とその根拠を自分の言葉で表し、他の生徒と共有し、自分の表現を深めていく。		試行錯誤の手段としてICTも活用し作品を制作する。発見したことや制作の意図を交換し見方を深め、次の表現に生かせるようにする。		集団行動を身に付け、基礎体力の向上を目指す。各種目の基本的な技術を身に付ける。		【技術】身近な問題を発見し、ものづくりを通して課題解決に取り組ませる。 【家庭】小学校で習ったことから復習しながら知識技能を定着を図る。		ICTを活用して、自分の考えを表現させる。		他者と意見を共有し、多様な考え方への理解を深め、よりよい自分やよりよい社会について考えられるようにする。	
2学年	文章全体と部分との関係、根拠となる事実や例、登場人物の言動の意味などを考えさせ、交流し、内容の理解に役立たせる。		ICT機器を活用した学びを通して、ペア・グループでの意見交換や全体共有による言語活動の充実を図り、三観点別評価に基づき、指導と評価の一体化を実現する。		図表を用いた思考と説明活動を通じ、「分かる」を「得意」に変える成功体験を創出する。		観察や実験の授業の中で自分の考えを他者と共有し、思考力を高めていくとともに基礎的な知識をICTを活用しながら身に付ける。		表現活動の中で、具体的な表現方法やその表現に至る考え方を、他の生徒と共有する中で、学び合い実践していく。		構想段階や制作途中で意見交換の場を設け、見通しをもって課題に取り組み、根気強く完成させる経験を増やす。		基本的な技能の習得をしつつ、様々な体力を高めるための運動を実践する。		【技術】世の中のテクノロジーに目を向けて、トライアル＆エラーで課題解決のために粘り強く取り組ませる。 【家庭】映像授業や現物を見たり触れたりしながら想像し生活に取り入れ工夫する力を付ける。		ICTを活用して、自分の考えを表現させる。		葛藤のある問いを設定し、個人思考と集団議論を工夫することで、生徒が多様な視点から自分事として深く思索できるようにする。	
3学年	文章を読み調べるなどして、構成や展開、事実の取り上げ方や語句・表現の仕方について読み取りや自分の文章に生かしていく		ICTを利用した視覚的な教材を用いたり興味や身近な話題などから学習内容へつなげるなどの工夫やグループ活動を取り入れることで、他者との意見を共有することで考えや理解を深める実践を行う		発問を手掛かりに考えたり対話によって考えを比較し広げる活動ができる場面を設定する。		観察や実験の授業の中で自分の考えをICTも活用しながら他者と共有し、思考力を高めていく。		表現活動の中で、具体的な表現方法やその表現にいたる考え方を他者と表現し合い資料を活用することで、実践する力を高める。		美術のもつ社会的な役割や歴史、日本文化の特性にも目を向けた活動を増やす。		基本的な技能を習得し、試合で実践できるようにする。		【技術】社会に必要なシステムを考え、最適化された提案をすることができるように取り組ませる。　【家庭】学び合いの時間を作り、プリントや振り返りのカードなどを有効に使い必要に応じて個々にアドバイスをしていく。		新出の文法事項が使われる場面や、その効果を意識してながら活動に取り組ませる。		多様な考えを授業内で共有し、よりよい社会や自己実現に向けて、道徳的実践意欲や態度を養う。	